

中小企業の 景気動向調査



千葉信用金庫

No.66(令和2年4月～6月)

NEWS report

■当期の業況は、全業種で大幅に悪化

新型コロナウイルスの感染拡大・緊急事態宣言の発動により、地域経済への影響は日を迫うごとに深刻化し、取引先からは資金繰りに関する不安の声が全ての業種から寄せられています。

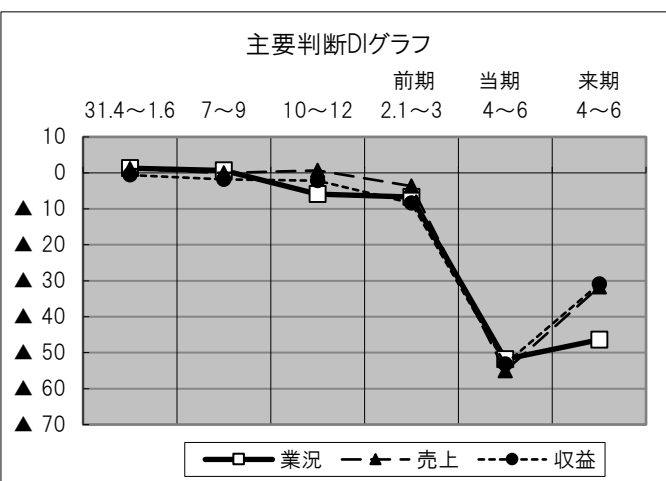
■来期の業況は、建設・不動産業以外が改善、総合では当期に比べ若干の改善を予測

【全業種】

全業種総合の当期の業況判断DIは▲51.8と、前期から45.1ポイント大幅に悪化しました。さらに、前年同期からは53.1ポイントの大幅な悪化となりました。

来期は、販売価格の下落は若干弱まり、資金繰りの厳しい状況は続くものと予想されています。売上高・収益ともに減少傾向は弱まり、業況判断DIは当期と比べて5.4ポイント改善すると予測されています。

DI項目	前年同期 H31.4 ～R1.6	前期 R2.1 ～R2.3	当期 R2.4 ～R2.6	来期 (予測) R2.7 ～R2.9
業況	1.3	▲ 6.7	▲ 51.8	▲ 46.4
売上高	1.1	▲ 3.7	▲ 55.1	▲ 31.8
収益	▲ 0.6	▲ 8.4	▲ 53.1	▲ 30.9
販売価格	4.0	0.4	▲ 12.1	▲ 8.9
仕入価格	26.1	17.1	2.8	2.8
在庫	▲ 0.6	▲ 2.8	▲ 3.0	▲ 4.1
資金繰り	▲ 9.3	▲ 6.1	▲ 28.1	▲ 21.8



【調査概要】

本調査は、当金庫お取引先のご協力を得て調査したものです。当金庫営業地域の経済動向把握と共に、地域の中小企業の皆様に経営の参考にしていただくためにまとめたものです。

■調査対象時期 当期(令和2年4月～6月)、来期(今後3ヶ月:令和2年7月～9月の見通し)

■調査企業先数 当金庫お取引先492社 有効回答数463社

(内訳:製造業73社:卸売業46社:小売業104社:サービス業84社:建設業95社:不動産業61社)

■DIの説明

DIとは、「良い」「増加」「上昇」「過剰」「楽」と答えた企業割合から「悪い」「減少」「下降」「不足」「苦しい」と答えた企業割合を差し引いた数値のことです。「良い」には『やや良い』を含み、「悪い」には『やや悪い』を含みます。「増加」「減少」等、他の項目も同様です。

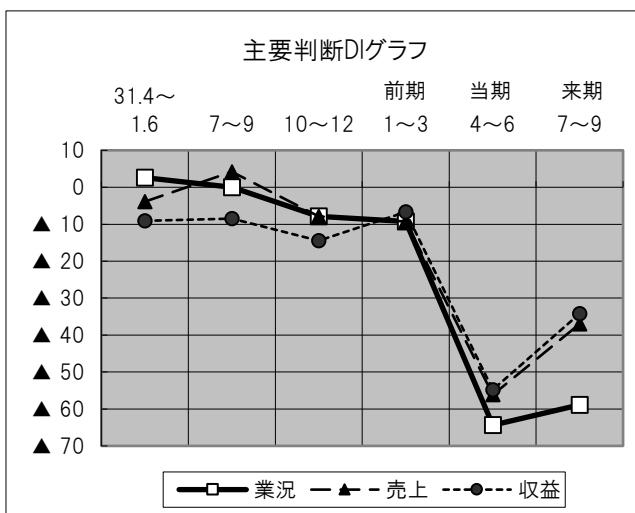
これら数値がプラスかマイナスか、そしてその大きさの程度によって、景気変化の方向を時系列的な推移の中で分析することを目的としています。

【製造業】～今期は大幅悪化、来期は当期に比べ改善と予測～

製造業の当期の業況判断DIは▲64.4と、前期から55.1ポイント大幅に悪化しました。原材料価格は上昇が弱まったものの、売上高・収益は減少傾向が強まり、資金繰りは苦しさが増しました。業況判断DIは前年同期から67ポイントの大幅な悪化となりました。

来期は、売上高・収益ともに減少傾向が続くと予測されています。資金繰りは苦しい状況が続くものの若干緩和し、業況判断DIは当期と比べ5.5ポイント改善が予測されています。

DI項目	前年同期 H31.4 ～R1.6	前期 R2.1 ～R2.3	当期 R2.4 ～R2.6	来期(予測) R2.7 ～R2.9
業況	2.6	▲ 9.3	▲ 64.4	▲ 58.9
売上高	▲ 3.9	▲ 9.3	▲ 56.2	▲ 37.0
受注残	▲ 7.8	▲ 6.7	▲ 49.3	▲ 28.8
収益	▲ 9.1	▲ 6.7	▲ 54.8	▲ 34.3
販売価格	▲ 2.6	▲ 1.3	▲ 8.2	▲ 11.0
原材料価格	31.2	24.0	11.0	8.2
原材料在庫	5.2	5.3	6.9	8.2
資金繰り	▲ 14.3	▲ 8.0	▲ 32.9	▲ 30.1
設備状況	▲ 16.9	▲ 17.3	▲ 15.1	▲ 15.1

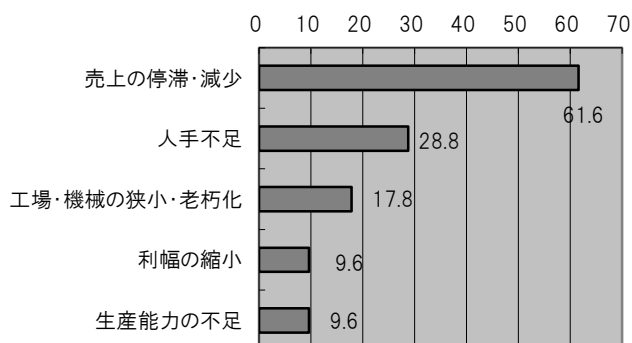


■調査員コメント「新型コロナウイルスの影響について」

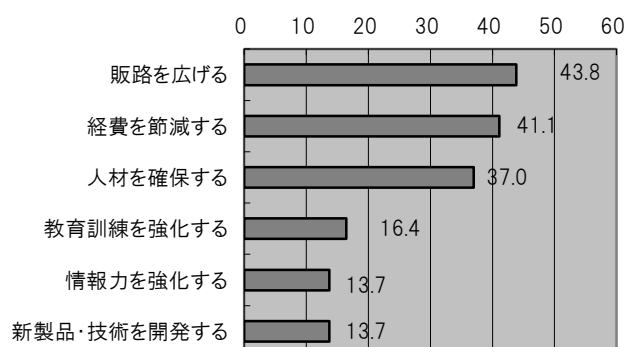
- ・取引先の多くが設備投資の時期を見直す傾向にあり、受注残が例年より減少。(鑄造機製造)
- ・外国人技能実習生を受け入れ予定だったが、入社できない状況。(精肉加工)
- ・学校の休校により給食事業の受注が3か月間なくなり、売上が減少。(パン製造)
- ・受注悪化により創業以来の業績悪化となった。(機械器具)
- ・取引先からの値引き依頼、原材料の値上げ等の影響があり、売上が減少。(金属加工製品)
- ・中国の自動車工場が停止し受注が落ち込んでいたが、工場再開に伴い受注は回復傾向。(精密機械部品製造)

■製造業における経営上の問題点と重点経営施策について (複数回答)

【経営上の問題点:上位5項目(%)】



【当面の重点経営施策:上位6項目(%)】

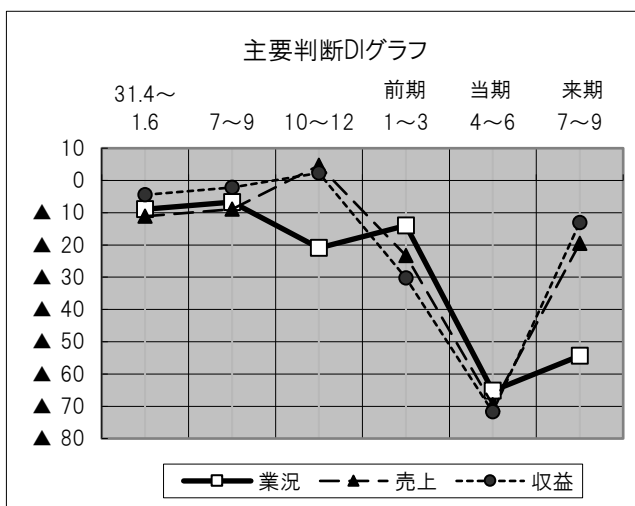


【卸売業】～今期は大幅悪化、来期は当期に比べ改善を予測～

卸売業の当期の業況判断DIは▲65.2で、前期から51.2ポイント大幅に悪化しました。仕入価格は上昇が弱まったものの、販売価格の下降が強まり、売上高・収益ともに大幅に減少傾向が強まりました。在庫状況は過剰傾向に転じ、資金繰りも悪化に転じています。業況は厳しい状況が続いており、前年同期からは60.8ポイントの大幅な悪化となりました。

来期は、仕入価格の上昇が引き続き弱まり、販売価格は上昇傾向に転じると予測されています。売上高・収益は大幅に減少傾向が弱まり、業況判断DIも10.8ポイント改善するものの、厳しい状況が続くと予測されています。

DI項目	前年同期 H31.4 ～R1.6	前期 R2.1 ～R2.3	当期 R2.4 ～R2.6	来期(予測) R2.7 ～R2.9
業況	▲ 4.4	▲ 14.0	▲ 65.2	▲ 54.4
売上高	▲ 11.1	▲ 23.3	▲ 69.6	▲ 19.6
収益	▲ 4.4	▲ 30.2	▲ 71.7	▲ 13.0
販売価格	6.7	▲ 2.3	▲ 15.2	2.2
仕入価格	20.0	20.9	6.5	4.4
在庫	▲ 2.2	▲ 4.7	2.2	▲ 2.2
資金繰り	▲ 4.4	7.0	▲ 28.3	▲ 13.0
設備状況	▲ 15.6	▲ 11.6	▲ 4.4	▲ 2.2



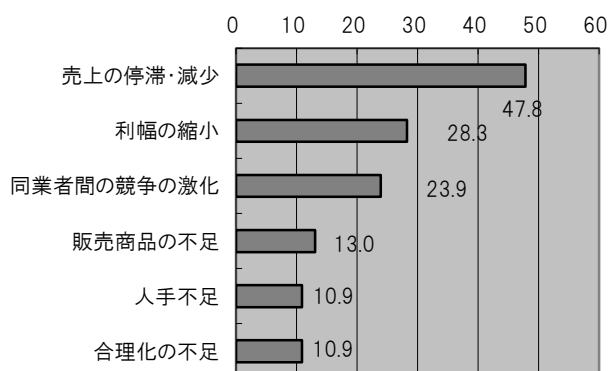
■調査員コメント「新型コロナウイルスの影響について」

- ・取引先である居酒屋・飲食店が営業自粛となり、売上高が8割以上減少。(酒類)
- ・商業施設等の取引先からの受注が減少。補助金等施策を活用して資金繰りを安定させていく。(海苔・茶他)
- ・学校の休校により、給食の原材料の販売がストップし、売上高も減少。(酒類・食料品)
- ・レストラン・ホテルの営業自粛で水産物の販売量が減少、当面も減少が続く見込み。(水産物)
- ・衛生用品の売上が増加、特にマスク・手袋・シーツ等の売上が大幅に増加した。(理容品)

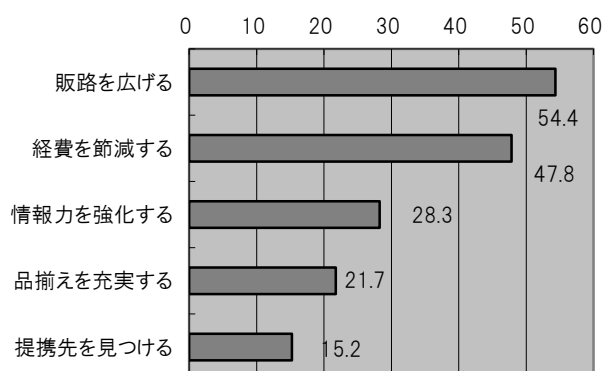
■卸売業における経営上の問題点と重点経営施策について

(複数回答)

【経営上の問題点:上位6項目(%)】



【当面の重点経営施策:上位5項目(%)】

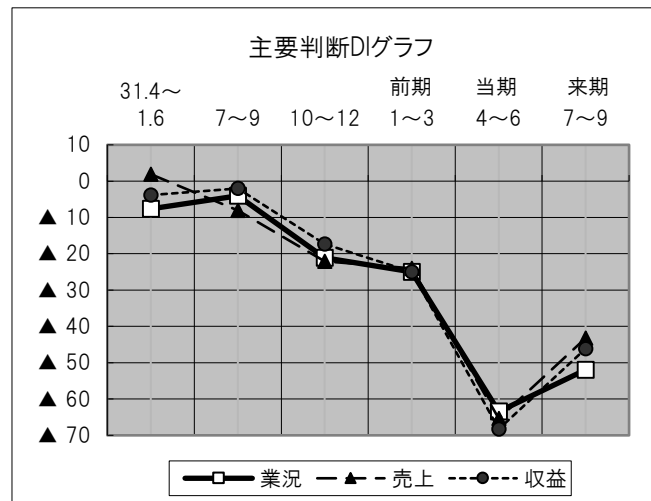


【小売業】～今期は大幅悪化、来期は当期に比べ改善を予測～

小売業の当期の業況判断DIは▲63.5で、前期から38.5ポイント悪化しました。仕入価格・販売価格は下降に転じました。資金繰りは苦しさが増し、売上高・収益とも減少傾向が強まりました。業況判断DIは前年同期から55.9ポイントの大幅な悪化となりました。

来期は、販売価格の下降が強まり、資金繰りは苦しい状況が予測されています。売上高・収益の減少傾向が弱まり、業況判断DIも11.6ポイント改善するものの厳しい状況が続くと予測されています。

DI項目	前年同期 H31.4 ～R1.6	前期 R2.1 ～R2.3	当期 R2.4 ～R2.6	来期(予測) R2.7 ～R2.9
業況	▲ 7.6	▲ 25.0	▲ 63.5	▲ 51.9
売上高	1.9	▲ 24.0	▲ 65.4	▲ 43.3
収益	▲ 3.8	▲ 25.0	▲ 68.3	▲ 46.2
販売価格	13.3	2.9	▲ 6.7	▲ 8.7
仕入価格	26.7	10.6	▲ 1.0	1.0
在庫	10.5	▲ 3.9	▲ 1.9	▲ 6.7
資金繰り	▲ 18.1	▲ 15.4	▲ 37.5	▲ 31.7
設備状況	▲ 18.1	▲ 12.5	▲ 11.5	▲ 10.6



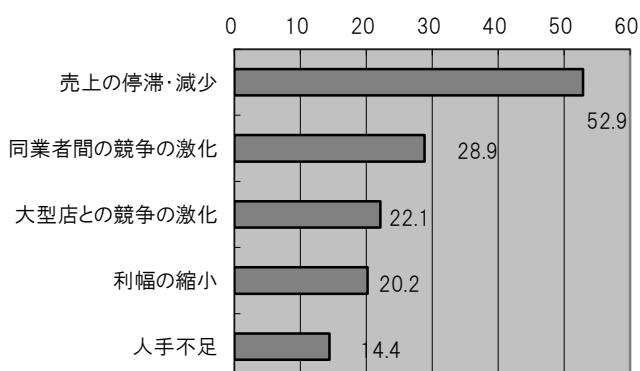
■調査員コメント「新型コロナウイルスの影響について」

- ・成田山参拝客が減少し、来店客も減少。祭りの中止も相次ぎ甚大な被害を受けている。(呉服)
- ・店内利用は減ったがドライブスルーの利用客が増え、大きな売上減少にはなっていない。(ハンバーガー)
- ・外出自粛により車両のタイヤ交換の需要が低下し、売上減少となった。(自動車タイヤ)
- ・来店客が大幅に減少し売上に影響。今後も売上回復が見通せない状況のため、インターネット販売にも力を入れていく。(五月人形他)
- ・外出自粛によりガソリン消費が低下し、影響が出ている。(ガソリン石油)

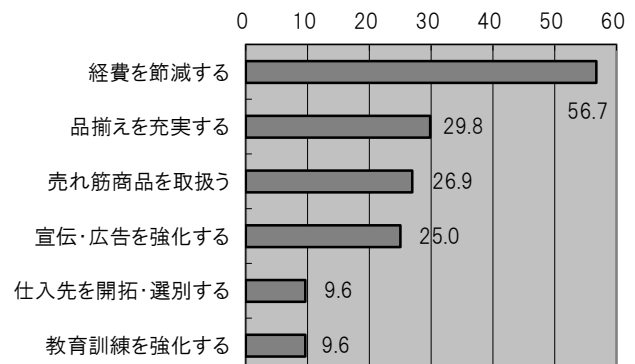
■小売業における経営上の問題点と重点経営施策について

(複数回答)

【経営上の問題点:上位5項目(%)】



【当面の重点経営施策:上位6項目(%)】

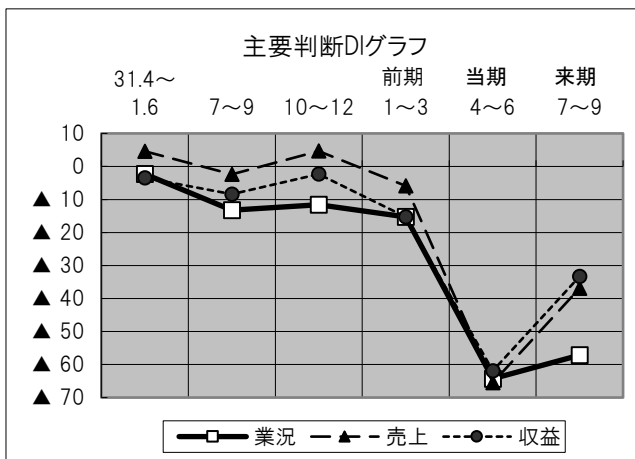


【サービス業】～今期は大幅悪化、来期は当期に比べ改善を予測～

サービス業の当期の業況判断DIは▲64.3で、前期から49ポイント大幅に悪化しました。材料価格は均衡化するものの、料金価格は下降が強まり、売上高・収益は減少傾向が強まりました。業況判断DIは前年同期から62ポイントの大幅な悪化となりました。

来期は、料金価格の下降が弱まり、売上高・収益の減少傾向は弱まると予測されています。資金繰りは苦しい状況が続き、業況判断DIは当期と比べて7.2ポイント改善するものの、厳しい状況が続くと予測されています。

DI項目	前年同期 H31.4 ～R1.6	前期 R2.1 ～R2.3	当期 R2.4 ～R2.6	来期(予測) R2.7 ～R2.9
業況	▲ 2.3	▲ 15.3	▲ 64.3	▲ 57.1
売上高	4.6	▲ 5.9	▲ 65.5	▲ 36.9
収益	▲ 3.5	▲ 15.3	▲ 61.9	▲ 33.3
料金価格	3.5	▲ 4.7	▲ 15.5	▲ 11.9
材料価格	25.3	17.7	0.0	3.6
資金繰り	▲ 12.6	▲ 10.6	▲ 36.9	▲ 26.2
設備状況	▲ 10.3	▲ 16.5	▲ 16.7	▲ 14.3

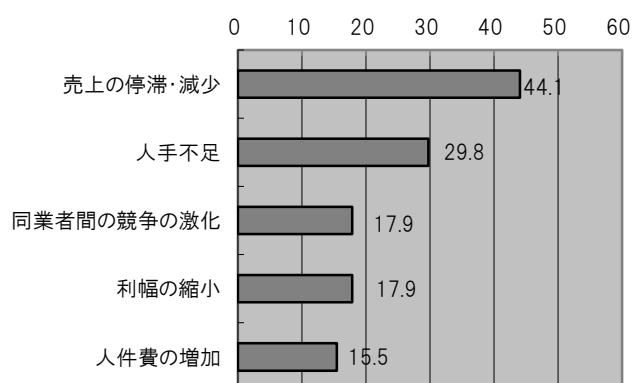


■調査員コメント「新型コロナウイルスの影響について」

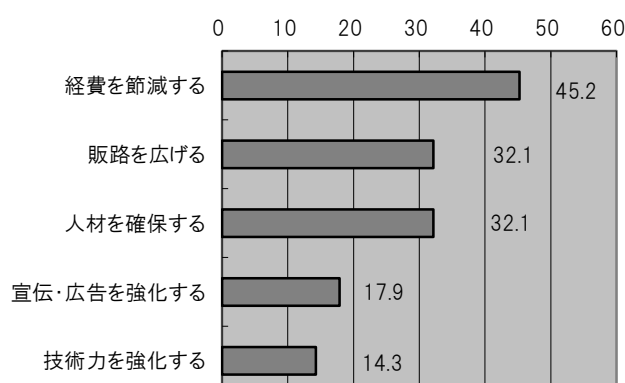
- ・テレワーク等によりスーツのクリーニングが減り、売上が減少した。(クリーニング)
- ・テレワークの保護者が増え、園児も自宅待機となり売上減少となった。(保育園)
- ・営業自粛・営業時間短縮を余儀なくされた。雇用調整助成金を利用した。(理容室)
- ・約2か月旅館を閉鎖し6月から徐々に営業開始、元に戻るまで相当な時間がかかる見込み。(旅館)
- ・秋入学の外国人留学生の申請を受付中だが、申請人数は例年の1/10以下の状況。(語学学校)
- ・車両販売が前期と比べ好調で売上も増加傾向にある。固定客も多く、引き続き業況は順調に推移していく見込み。(自動車整備)

■サービス業における経営上の問題点と重点経営施策について (複数回答)

【経営上の問題点:上位5項目(%)】



【当面の重点経営施策:上位5項目(%)】

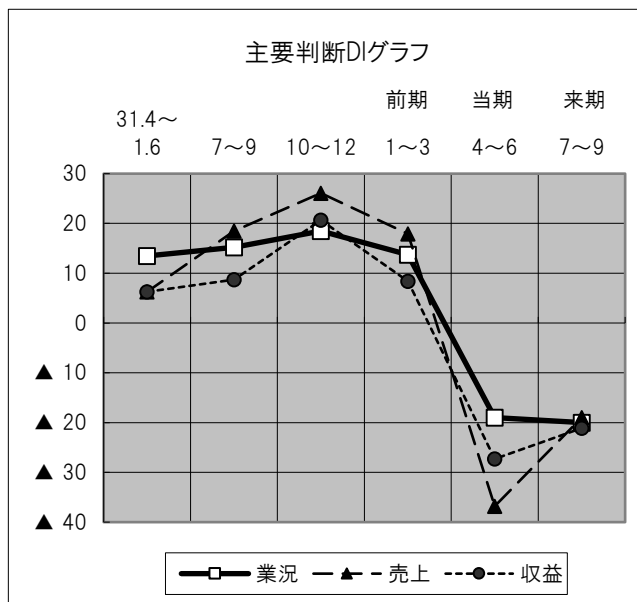


【建設業】～今期は悪化に転じ、来期は当期に比べさらに悪化を予測～

建設業の当期の業況判断DIは▲19.0の悪化に転じ、前期から32.7ポイントのマイナスとなりました。材料価格は上昇が弱まったものの、請負価格は下降に転じ、売上高・収益は大幅な減少に転じました。資金繰りは苦しさが増し、業況判断DIは前年同期から32.5ポイントの悪化となりました。

来期は、材料価格は均衡化に近づき、請負価格は下降が弱まると予測されています。売上高・収益・受注残・施工高はすべて減少傾向が弱まると予測されています。資金繰りは苦しさが増し、業況判断DIは当期と比べて1.0ポイント悪化すると予測されています。

DI項目	前年同期 H31.4 ～R1.6	前期 R2.1 ～R2.3	当期 R2.4 ～R2.6	来期(予測) R2.7 ～R2.9
業況	13.5	13.7	▲19.0	▲20.0
売上高	6.3	17.9	▲36.8	▲19.0
受注残	10.4	11.6	▲32.6	▲19.0
施工高	8.3	10.5	▲29.5	▲14.7
収益	6.3	8.4	▲27.3	▲21.1
請負価格	▲1.0	6.3	▲14.7	▲8.4
材料価格	28.1	23.2	7.4	4.2
在庫	5.2	▲4.2	▲6.3	▲4.2
資金繰り	1.0	▲1.1	▲14.7	▲15.8
設備状況	▲4.2	▲6.3	1.1	▲1.1

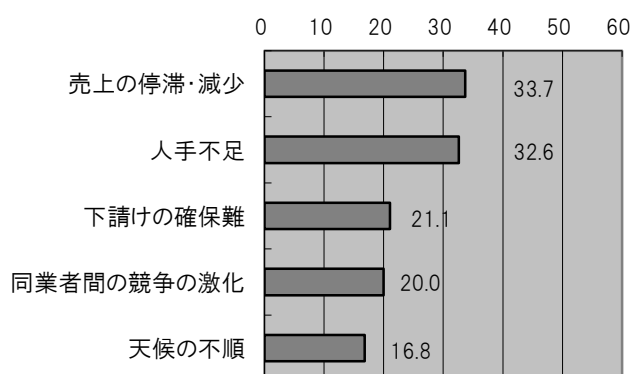


■調査員コメント「新型コロナウイルスの影響について」

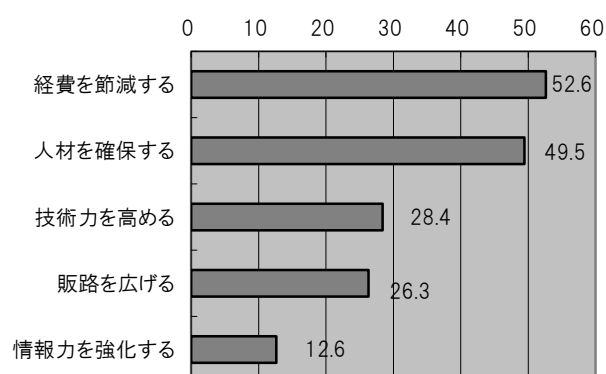
- ・中国からの建築資材の輸入ができず工事遅延。緊急事態宣言以降工事現場が中断し、引き渡しが大幅に遅れたことから売上が減少。(設備工事)
- ・入国規制による外国人労働者の減少が痛手となっている。(土木一式)
- ・材料価格の値上げで利益率が低下。売上は現状変化がないが今後減少見込み。(左官工事)
- ・外出自粛によりエンドユーザーとの商談が減り売上が減少。(住宅建設)
- ・工期の遅れ等が発生したものの、現状工事の受注状況は回復傾向。(とび・土木工事)

■建設業における経営上の問題点と重点経営施策について (複数回答)

【経営上の問題点:上位5項目(%)】



【当面の重点経営施策:上位5項目(%)】

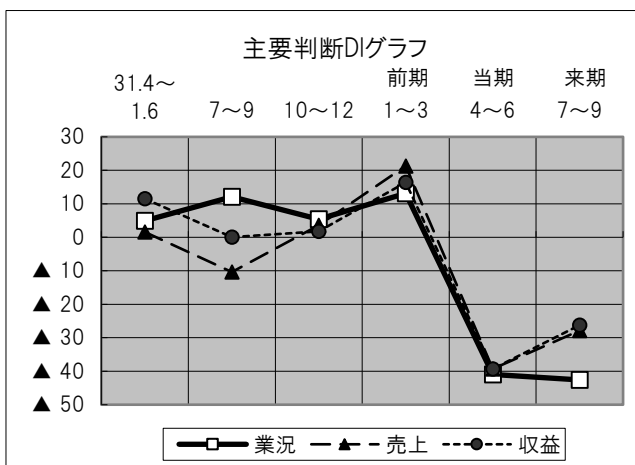


【不動産業】～今期は悪化に転じ、来期は当期に比べさらに悪化を予測～

不動産業の当期の業況判断DIは▲41.0の悪化に転じ、前期から54.1ポイント大幅に悪化しました。仕入価格は下降に転じ、販売価格も下降が強まりました。売上高・収益は大幅な減少に転じ、資金繰りも苦しくなり、業況判断DIは前年同期から45.9ポイントの悪化となりました。

来期は、在庫の不足状況が若干強まり、販売価格・仕入価格は当期に比べ下降が弱まると予測されています。売上高・収益は減少傾向が弱まり、資金繰りも苦しさが和らぐ一方、業況判断DIは1.6ポイント悪化すると予測されています。

DI項目	前年同期 H31.4 ～R1.6	前期 R2.1 ～R2.3	当期 R2.4 ～R2.6	来期(予測) R2.7 ～R2.9
業況	4.9	13.1	▲41.0	▲42.6
売上高	1.6	21.3	▲39.3	▲27.9
収益	11.5	16.4	▲39.3	▲26.2
販売価格	3.3	▲1.6	▲14.8	▲11.5
仕入価格	21.3	6.6	▲6.6	▲4.9
在庫	▲36.1	▲11.5	▲19.7	▲21.3
資金繰り	▲3.3	1.6	▲14.8	▲4.9

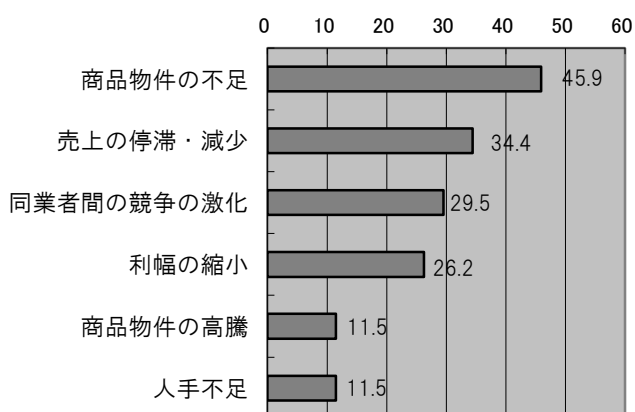


■調査員コメント「新型コロナウイルスの影響について」

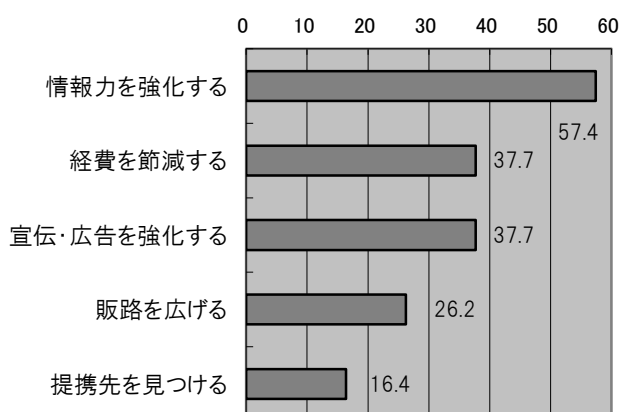
- ・裁判所が閉鎖となり競売物件の仕入れがストップした。(不動産売買・仲介・管理)
- ・一般消費者が住宅購入を見送るなどして売上が減少。最低1年程度は減少見込み。(建売)
- ・商品物件が不足。情報収集を強化して優良物件を確保する。(不動産売買・仲介)
- ・外出自粛で来店客は減少するが、物件の問い合わせは従前より増加している。(土地売買)
- ・物件の案内件数が大幅に減少、十分に営業活動が出来ていない状況。(建売)
- ・影響はほとんどなく、業況も安定している。(不動産賃貸)

■不動産業における経営上の問題点と重点経営施策について (複数回答)

【経営上の問題点:上位6項目(%)】



【当面の重点経営施策:上位5項目(%)】

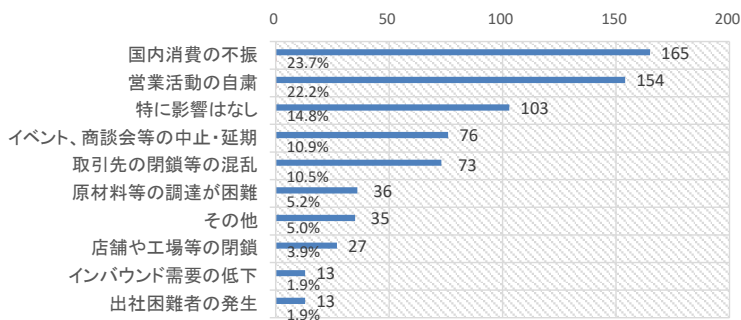


特別調査

～「新型コロナウイルスの感染拡大による中小企業への影響について」～

1. 新型コロナウイルスの影響を受けているか。

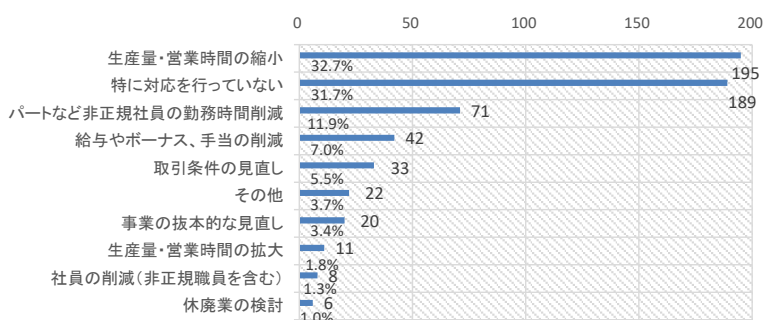
(有効回答数695件:複数回答)



選択件数が一番多かったのは「国内消費の不振」を心配するもので165件(23.7%)、次いで「営業活動の自粛」154件(22.2%)となりました。「特に影響なし」は103件(14.8%)にとどまり、「イベント等の中止」「店舗や工場等の閉鎖」など様々な影響を及ぼしました。

2. 新型コロナウイルス感染拡大を受けてどのような対応を取っているか。

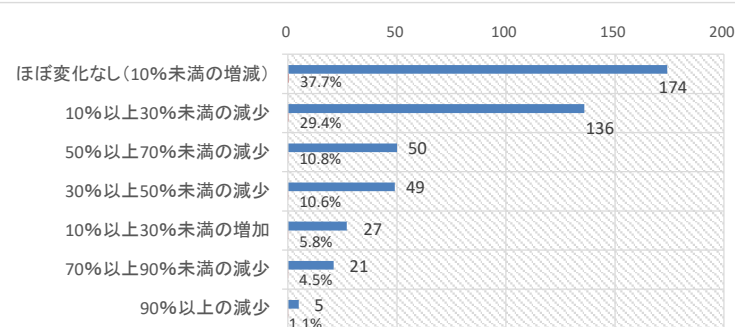
(有効回答数597件:複数回答)



「生産量・営業時間の縮小」との回答は195件(32.7%)、「特に対応を行っていない」189件(31.7%)、「パートなど非正規社員の勤務時間削減」は71件(11.9%)、「給与やボーナス、手当の削減」が42件(7.0%)となりました。また、「社員の削減」や「休廃業の検討」をするなど影響の大きさを表す結果となりました。

3. 今期(4～6月)の売上は新型コロナウイルスの影響がなかった場合、(例年の4～6月)と比較して、どの程度変化したか。

(有効回答数462件:単数回答)

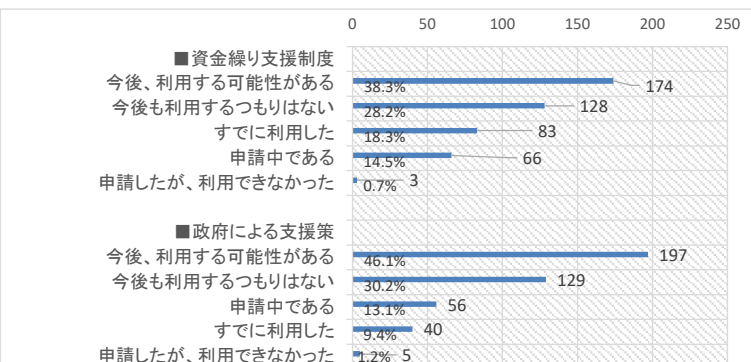


「ほぼ変化ない(10%未満の増減)」との回答は174件(37.7%)、「増加」との回答が27件(5.8%)あったものの、半数以上が売上の減少となり、新型コロナウイルス感染拡大に伴う深刻な結果となりました。

なかでも、「30%以上の減少」は合わせて125件(27.0%)にのぼりました。

4. 危機関連保証や制度融資など、新型コロナウイルス対応の資金繰り支援制度を利用したか。 5. 資金繰り以外の政府による支援策(補助金、休業補償、減税、納税猶予など)を受けたか。

(有効回答数:資金繰り支援制度454件、資金繰り以外の政府支援策427件 いずれも単数回答)



資金繰り支援制度については、『「すでに利用した」「申請中である」「今後利用する可能性がある』との回答が合わせて323件(71.1%)に上り、切迫した資金繰りの状況を感じる結果となりました。

政府による支援策については、『「すでに利用した」「申請中である」「今後利用する可能性がある』との回答は合わせて293件(68.6%)にも上り、切迫した資金繰りの状況と支援策の浸透状況がうかがえる結果とな

他の機関における景況調査結果

『商工会議所LOBO（早期景気観測）調査（令和2年5月期）』（日本商工会議所：令和2年5月29日発表）

＜業況DIは、新型コロナウイルスにより一段の悪化、 先行きも影響長期化への懸念から厳しい見方続く＞

■5月の全産業合計の業況DIは、▲65.8（前月比▲5.4ポイント）と一段の悪化

新型コロナウイルスの流行に伴い、消費者の外出自粛や企業の営業自粛・休業の動きが広がる中、ゴールデンウィークの観光需要消失などにより幅広い業種で売上が低迷している。加えて、固定費の負担増が資金繰りを急激に悪化させており、特にサービス業では89年4月の調査開始以来、過去最悪（※）の▲77.6を記録した（※これまでは、2009年2月時の▲72.6）。また、新型コロナウイルスの影響長期化を懸念し、設備投資や採用、新規事業の見直しに踏み切るとの声も聞かれるなど、中小企業の景況感是一段と厳しさを増している。

■先行き見通しDIは▲69.0（今月比▲3.2ポイント）と悪化。

緊急事態宣言の解除や緊急経済対策の政策効果による消費喚起を期待する声が聞かれるものの、企業・消費者のマインド低迷やインバウンドを含む観光需要の回復遅れ、サプライチェーン・生産活動への影響長期化などへの懸念に加え、新たな生活様式の浸透に伴うビジネスモデルの変容を指摘する声も多く、先行きに対して厳しい見方が続く。

※商工会議所職員のヒアリング調査を335商工会議所の協力により、2,703企業を対象に実施。

『法人企業景気予測調査（令和2年4月～6月期調査）』（内閣府、財務省：令和2年6月11日発表）

＜大企業、中堅企業、中小企業いずれも「下降」超＞

令和2年4～6月期の自社の景況感を示す景況判断指数（「上昇」の回答割合から「下降」の回答割合を引いた値）は、大企業全産業で▲47.6と前回調査結果の▲10.1に比べて37.5ポイント悪化した。中堅企業については▲54.1と前回調査結果の▲13.1に比べて41ポイント悪化し、中小企業については▲61.1と前回調査結果の▲25.3からは35.8ポイント悪化した。

全企業で「下降」超幅が拡大した。大企業と中小企業の乖離は前回調査の15.2ポイントから13.5ポイントに縮小、中堅企業と中小企業の乖離も前回調査の12.2ポイントから7ポイントに縮小した。

令和2年7～9月の景況見通しを示す指数を全産業で見ると、今期に比べると改善を予測している。大企業は▲6.6（今期比+41ポイント）、中堅企業は▲17.3（今期比+36.8ポイント）、中小企業は▲27.2（今期比+33.9ポイント）。

※調査時点を令和2年5月15日、調査対象企業の範囲を資本金、出資金又は基金1千万円以上の法人（電気・ガス・水道業及び金融業、保険業は資本金1億円以上）として実施。大企業：資本金10億円以上、中堅企業：資本金1億円以上10億円未満、中小企業：資本金1千万円以上1億円未満の企業をいう。

回答法人数：大企業3,793社、中堅企業2,625社、中小企業3,793社の合計10,211社。

ちばしんきん経営者会のご案内

**もっと経営力を高めたい！
他の経営者と交流を深めたい！**

ちばしんきん経営者会は、地元の中小企業経営者あるいはその後継者を会員として、会員相互の情報交換と経営問題について、その時々ニーズに合ったセミナーや講演会等を開催しています。

各種行事を通じて「新しい時代の経営環境に適応できる会員の経営力の向上と、その企業の健全な発展を図る」という基本理念のもと、会員の皆様も積極的に参加していただいています。

会員同士の交流も活発に行われ、そのネットワークも大きく広がっています。令和2年3月末現在、241名の会員様が入会されています。

■ 経営者の皆様のご入会をお待ちしています！

ちばしんきんコラボ産学官のご案内

**開発・改良に向けてのアドバイスを受けたい！
マーケティングや販売方法について相談したい！**

ちばしんきんコラボ産学官（事務局：千葉信用金庫）では、技術や研究等に関する相談を受付けています。また、大学等研究機関や支援機関のご協力により、県内の各地でセミナーや相談会等を開催しています。

ちばしんきんコラボ産学官は、産学官連携による研究開発を促進し、新商品・新産業の創出により地域経済の活性化を図ることを目的として平成19年3月に設立しました。「技術的な課題を解決したい」、「開発改良に向けてのアドバイスを受けたい」などのご相談に大学等研究機関に直接持ち込み、ニーズとシーズ（技術やノウハウ）のマッチングを図ります。令和2年3月末現在、147社の会員様が入会されています。

■ 詳しくはお取引のある千葉信用金庫の職員にお問い合わせください！

よろず支援拠点個別相談会を開催中！

千葉信用金庫では、お客様の経営に関する課題解決のため、千葉県よろず支援拠点（実施機関：公益財団法人千葉県産業振興センター）と連携して、千葉信用金庫の以下の営業店にて出張相談会を開催しています。

あらゆる経営課題に対し、専門スタッフが無料で対応いたします。

お気軽にご参加ください！

◆令和2年度開催日程・開催場所（予定）※変更になる場合もあります

開催日程	開催場所
7月14日(火)	成田支店
9月8日(火)	木更津支店
10月13日(火)	本店
11月10日(火)	成田支店
12月8日(火)	木更津支店
令和3年2月9日(火)	本店
令和3年3月9日(火)	成田支店

◆時間帯：13時～16時

ご相談は1社1時間程度、事前予約制（先着順）となります。

◆お問い合わせはお近くの営業店まで

しんきん圏央道アライアンスによる SNS公式「Instagram」を開設します

千葉信用金庫では、2018年12月に首都圏に本・支店を置く水戸信用金庫（茨城県）、埼玉縣信用金庫（埼玉県）、平塚信用金庫（神奈川県）、多摩信用金庫（東京都）と「しんきん圏央道アライアンス」に関する協定を締結し、圏央道沿線の地域の活性化や観光資源の活用など、地域を横断した信用金庫の新たなネットワークによる地域経済の発展を目指しています。



公式キャラクター
「ディーピー」

本協定に基づき、日本財団「わがまち基金」の助成事業「信用金庫の広域連携による圏央道沿線地域の『地域資源』『地域産品』の発掘・発信プロジェクト」として、地域資源の発信による観光資源の発掘、地域産品のブランド価値の向上に取り組んでいます。

同プロジェクトの一環として6月15日よりSNS「Instagram」の公式アカウントを開設しました。信用金庫の職員である「地域レポーター」とキャラクター「ディーピー」が深掘りした、地域の食や観光などの旬な情報をお届けします。

フォローは、こちらのQRコードから 



■千葉信用金庫、中小企業の景気動向調査へのみなさまのご意見、ご要望をお寄せください。



千葉信用金庫 地域推進部
TEL 043-221-3683 担当：伊藤・樋廻